

自然エネルギー100%社会は見えている

竹村 英明 (グリーンピープルズパワー株式会社代表取締役、
NPO 法人市民電力連絡会理事長)

世界中の紛争は衣食住に直結し、一見平和な日本も資材不足、物価高騰、武器輸出と「戦争経済」に巻き込まれています。なのに「自然エネルギー100%社会が見えている」？ 実は続きがあります。「私たちが、その実現に全力を注ぐなら」です。誰かがやってくれるだろう… と思っている限り、その日は来ないかもしれません。

日本が自然エネルギー資源の宝庫であることはあまり知られていません。エネルギーは石油やウランという教育が小さい頃から叩き込まれています。実は太陽光や風力などの資源だけで、日本の電力需要の 100 倍以上です。電気や熱に変えることができていないだけ。太陽光発電や風力発電は、「変える技術」ですが、爆発的に伸びている海外に比べ日本は遅い。それでも電気の 25% は自然エネルギーになっています。ちなみに原発は 5% 程度です。

世界には自然エネルギー 80% や 70% の国もあります。日本の資源はそれらの国を上回り、世界中を送電線で結んだら日本は確実にエネルギー輸出国になるでしょう。日本の自然エネルギーが爆発的に伸びないのは、伸ばさない政策が取られているからです。短い紙面で政策のことを細かに書くことはできませんが、私が言いたいのは、だからと言って諦めないということです。

ドイツでは「プラグインソーラー」と呼ばれる、家庭用ポータブル蓄電池と太陽光パネルのセットが、100 万 kW を超えて広がっています。ドイツでも日本でも法律的問題があるのですが、みんながやっちゃったドイツでは法律も変わりました。

プラグインソーラーは家庭での小さな地産地消ですが、これをもう少し広い日本のさまざまな地域に広げられないでしょうか？ 私はこれを「地産地消エリア」と呼んでいます。小さな町や村、団地、大学、マンション…。

自分たちで決められるエリアで、自分たちの発電所を作り自分たちで

その電気を使う。場合によっては熱や移動（EV）に変える。地続きでなくとも同じ会社、お店などのネットワークでも良いです。送電線でつながっていれば。

政府は化石や原子力エネルギーに支援政策を作り、自然エネルギーより安く見せようとしています。じゃあ安い方… と安易に選ぶ前に、ちょっと考えてください。本当は自然エネルギーが安いのです。目先の価格ではなく中身、品質で選んでみませんか？

環境を壊すメガソーラーではなく、畑や屋根の上などの小規模太陽光発電所を消費者である市民の手で無数に作りましょう。出資者も電気の配当を受け取るのも市民。そして電気を使うのも電気代を出すのも市民です。農産物とエネルギーと一緒に供給してくれるソーラーシェアリングもあります。食べ物も産直なら電気も産直です。

消費者がみんな自然エネルギーを選ぶようになれば、それは「自然エネルギー100%社会」です。今は意識して選ぶ人はほとんどいないかもしれませんが自然エネルギー比率はすでに 25% です。選ぶ人が増えれば、比率はさらに伸びていくでしょう。

自然エネルギーにとって蓄電池は不可欠。夜の電気、天気が悪い時の電気、災害などで大量の発電所が壊れた時のバックアップなど、蓄電池は日常的な供給だけでなく、非常時対策としても重要です。自然エネルギー100%時代には、電力需要の数倍の発電所、一定割合の蓄電池が必要になります。

太陽光発電パネルも蓄電池もリサイクル可能です。大量に使われるようになればリサイクルが産業になります。自然エネルギー100%の社会は、使い捨ての社会ではなく、これらの資源がうまく循環する社会であるということをお伝えして終わります。